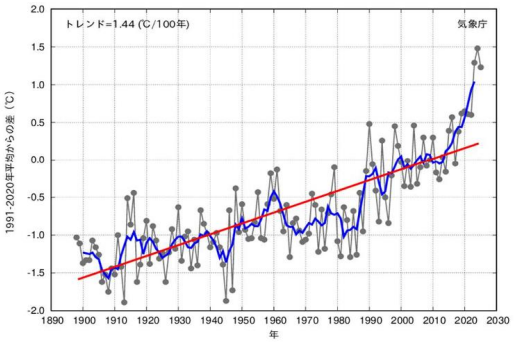
「みどりの食料システム戦略」の取組
（これからは、環境にやさしい農業と地産地消が大切！）

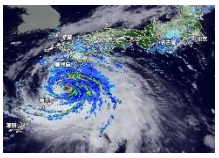
地球温暖化は社会的な問題 ⇐温室効果ガス（CO_2,CH_4等）が要因

日本の平均気温は、**100年あたり1.44℃の割合で上昇**。
2025年の年平均気温は、統計を開始した1898年（明治31年）以降、3番目に高い。
集中豪雨の発生回数も、増加傾向。

日本の年平均気温偏差




熊本豪雨（2020年）


台風10号（2024年）

2024年が1番目
2023年が2番目

作物の収量減少・
品質低下
漁獲量の減少

穀物の大宗は海外からの輸入

CO_2



消費量約3,300万ｔのうち、**約2,300万ｔを輸入**。

小麦の輸入量　521万t/年 → パン、麺
大豆の輸入量　317万t/年 → 豆腐、みそ、しょう油
とうもろこしの輸入量　1,527万ｔ/年 → 家畜のエサ



※紛争等の影響による海外からの食料調達の懸念。

化学肥料・農薬の原料も海外からの輸入

CO_2



CO_2

化学肥料の主原料の**ほぼ全量を輸入**。

窒素（N）の輸入量　256千t/年
りん安（N・P）の輸入量　370千t/年
塩化加里（K）の輸入量　228千t/年 → 国内で化学肥料等を生産



※紛争等の影響による海外からの原料調達の懸念。

地球温暖化等の課題を解決するため、「みどりの食料システム戦略」を策定！（令和3年5月）



農林水産業のCO_2**ゼロエミッション化**の実現
化学農薬の**使用量**（リスク換算）を**50%低減**
輸入原料や化石燃料を**原料**とした**化学肥料の使用量**を**30%低減**
耕地面積に占める**有機農業**の**取組面積の割合**を**25%(100万ha)に拡大**

農林水産省
九州農政局

温室効果ガスを減らす取組

農林水産業を通じて排出される温室効果ガスを減らすために、新しい技術や品種の開発などが行われています。

堆肥等の地域資源を活用した肥料
(JA鹿児島県経済連)



ミドリッチ茶1号、ミドリッチ茶2号、アグリッチ888

堆肥を使うことで化学肥料の使用量が減り、温室効果ガスを減らすことができます。

田植機やトラクター、無人ヘリを活用した可変施肥







ドローンや衛星によるセンシング等により得られたデータを活用し、土壌や生育状況に応じて適切に肥料を散布。これにより化学肥料の使用量が減り、温室効果ガスを減らすことができます。

環境にやさしい農業の推進

日本では、環境にやさしい農業を実現するため、有機栽培、IPM栽培、特別栽培など、環境に負担をかけない農業の取組がすすめられています。

【有機農産物】

農薬や化学肥料等に極力頼らず、自然界の力で生産



【IPM栽培】

農薬の代わりに、テントウムシなどを使って、害虫を退治



見る×選べる
みえるらべる

環境負荷低減の取組の「見える化」



〝オーガニックビレッジ〟に取り組んでいる鹿児島県の自治体

・湧水町　・姶良市　・南さつま市
・南種子町　・徳之島町

みどりの食料システムの実現
(未来の子ども達のために)



農産物の安定生産・供給





飛んできたコウノトリやサギ（石川県内）

農政に関する情報はこちらから

鹿児島県拠点
ホームページ

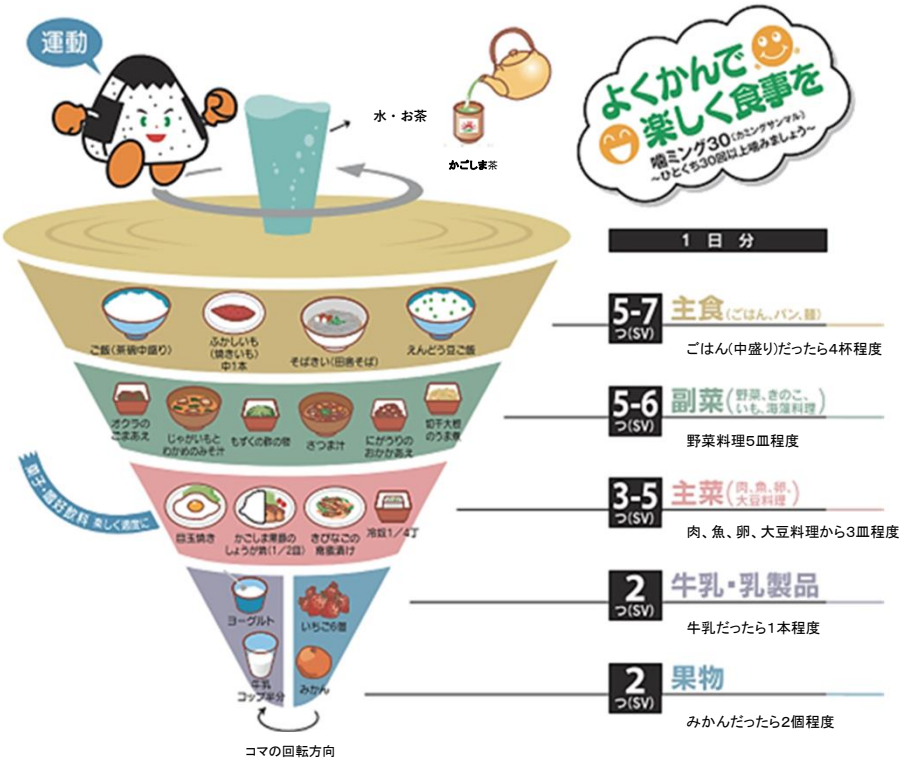
鹿児島県拠点
Facebook

鹿児島県拠点
Instagram

お問合せ先
九州農政局鹿児島県拠点
電話番号：099-222-5840

人間の身体は、水と食べ物で出来ている！

主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の５つのグループまんべんなく、コマの形になるように（上の方にあるグループほどしっかり）食べると、食事バランスはOK！





写真提供：鹿児島県栄養士会

食事バランスガイド（かごしま版）
料理例など
詳しく知りたい方は、
こちらから

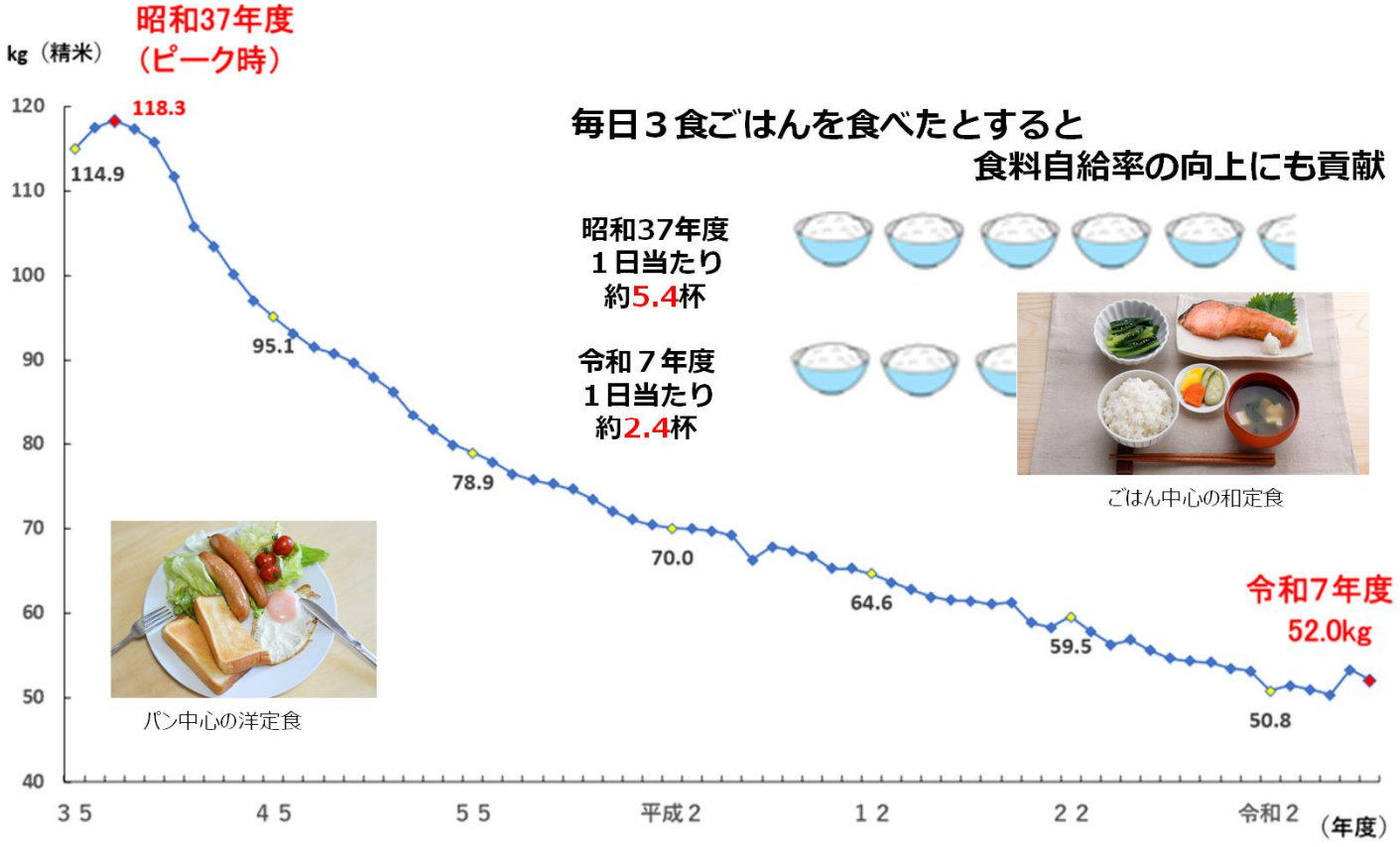
資料：鹿児島県

米を中心とした日本型食生活も必要！　→　子供･大人の食育

1人当たりの米の消費量は、ピーク時の半分以下！

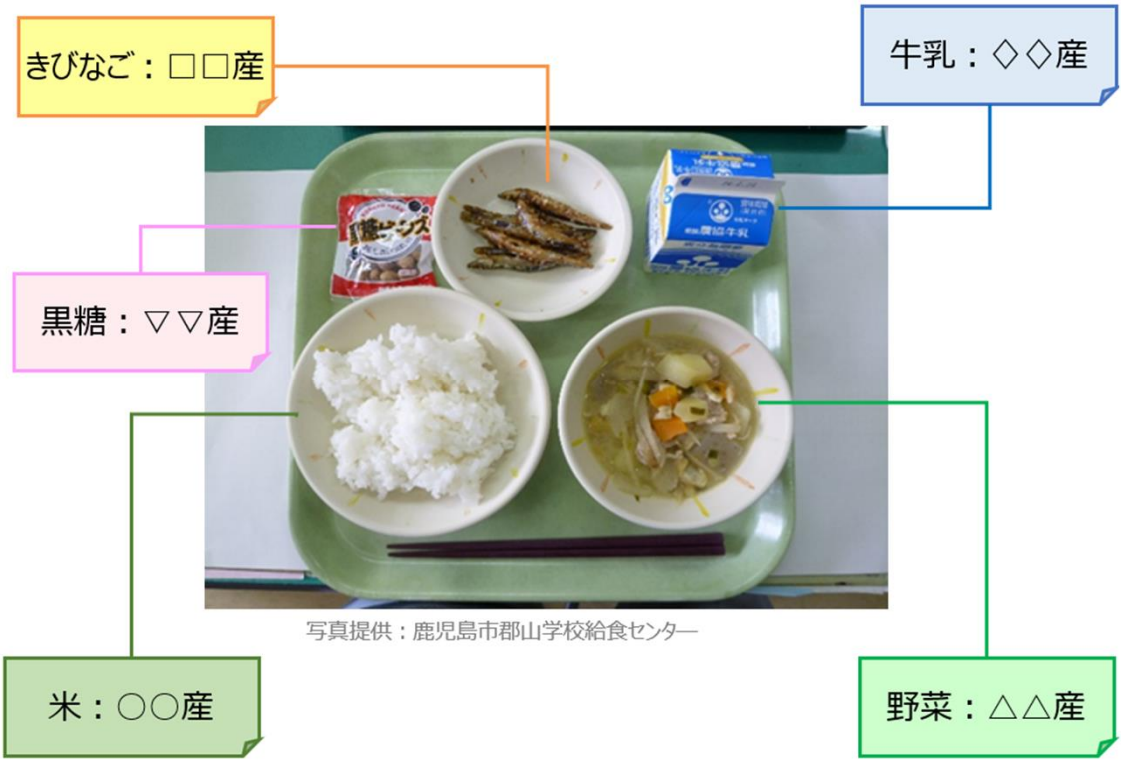
（食料自給率（カロリーベース）昭和40年 73% → 令和７年 37%）

米を中心とした日本型食生活も必要！



鹿児島県内で作られたものを食べると、地産地消！
例えば、学校給食、外食、家庭の食卓・・・

今日のメニューの「食材」は、
「何」だろう？　「どこで作られている」んだろう？
「どんな栽培方法」なんだろう？



写真提供：鹿児島市郡山学校給食センター

地産地消・・・消費者も安心して食料を調達。
農業者も売り先がはっきりして、安心！



かごしまブランド